



(株)ティーケーピー 代表取締役社長

河野 貴輝 氏

2014 Special Interviews
観光立国への在り方を学ぶ

貸会議室をITと融合させて急成長をみせる(株)ティーケーピー代表取締役社長の河野貴輝氏。国内のみならずニューヨーク、香港、上海、シンガポールにも海外事業所を展開、グローバルな視点から日本の観光の在り方を提言してくれた。これからの課題はインバウンドと日本の観光資源の再発見ということが重要なポイントになるという。若き経営リーダーの鋭利な問題提議に耳を傾けたい。

日 本国内の中だけで“観光”をいくら語っても、結局これからの日本の観光の在り方はインバウンド(訪日外国人客)抜きでは語れません。タイミングとしては「和食」がユネスコの世界文化遺産に登録されたり、2020年の東京オリンピック開催が決定したりと、まさに日本の新たな観光時代の幕開けの年になりそうな感じがします。

昨年、ニューヨークにカンファレンスセンターを開設してから、今まで以上に頻繁にNYを訪ねる機会が増えたのですが、やはりNYには人を魅了するさまざまなファクターがありますね。ベースボールやバスケットボールなどのスポーツイベント、ブロードウェイに象徴されるエンターテインメント、街そのものがエキサイティングで、常に新しい情報発信をしています。ホテルも実に多彩で、最高級レベルのホテルからイノベーションされた新しいホテル業態まで、目的別にいろいろなタイプのホテルが楽しめます。

つまり、日本の観光はこれからこうした世界の観光デステイネーションとの競争になるという自覚がまず観光に携わるすべての関係者には求められます。それは、一方で、どれだけ日本の良さや素晴らしさを再発見できるかということがポイントになります。どれだけ良いものを持っていても、それをプロモーションし、情報発信する技術がないと、誰にも伝わらない。ここが問題なんですね。

そのためにはSNSなどを駆使したITをツールにした戦略展開がやはり注目されます。国際的な視点、このコミュニケーションは圧倒的にITをベースにすることで経済合理性も図れるし、何よりスピード感がある。このスピード感が何より大切で、あとはトライ&エラーの発想が欲しいですね。何度失敗しても、さらにトライする勇気、これこそが最大の観光資源ではないでしょうか。

ITをツールとした 戦略展開

Takateru Kawano

〈Profile〉大分県出身。慶應義塾大学商学部を卒業、伊藤忠商事(株)為替証券部に入社。日本オンライン証券(現カブドットコム証券)、イーバンク銀行(現楽天銀行)取締役営業本部長などを歴任。その後ホテルの再開発プロジェクトに参画し、不動産分野のデューデリジェンスビジネスを経験。2005年8月に(株)ティーケーピーを立ち上げ、現在に至る。